

おはよ



障教組ブログ展開中!



兵庫県障害児学校教職員組合（障教組）
神戸市中央区北長挾通5丁目2-10
兵庫県高等学校教職員組合会館内
TEL (078) 341-6745

全職員版 NO.8 2021.11.12

人間を大切にする学校をつくるために力を合わせていこう

10月30日(土) 第2回全県分会代表者会議 報告



第1回に続き、但馬会場・姫路会場・神戸会場・自宅とZOOMを繋いで実施しました。今回の会議は、この秋冬に兵庫県教育委員会との交渉に臨む要求書を確定させること、要求を実現させるための職場の取り組みを討議することが主でした。始めに介助員さんから「欠員が生じて休めない。

初任給を上げたり、勤勉手当を支給してもらったりして待遇を向上させないと、募集をかけても来ない。病気休暇も絶対必要」と切実な訴えがありました。「人」の問題では、臨時講師の待遇改善、採用数を上げてほしいという願いも出ました。複数の学校で代替教員が見つからず厳しさが増している実態も語られ、県に「先読み加配*」など新たな制度の導入や生活・学習支援員の増員を求める声もあがりました。

「物」の問題では、いなみ野・東はりま特支の過大・過密による教室不足が深刻で、学校新設や緊急の増設など早急な対応が求められています。次年度春に新設される「むこがわ特別支援学校」について、計画上の不足が見られるスロープやエレベーターの設置などを、早急に県に要求していくことも確認されました。その他多くの学校・分会からの要求を要求書にまとめて、県に訴えていくことになりました。

課題は山積みですが、9日から始まった高教組の確定交渉でも前進が期待されます。また寄宿舎教員の採用試験復活については、各地域で保護者ともつながって県議会への粘り強い働きかけが続いており、少しずつ動き始めています。組合の歴史の中で今までもそうだったように、「人間が大切にされる



学校・社会」へと、私たちは変える力を持っています。この秋冬の件に向けての要求運動にご注目いただくとともに、どうか一緒に考える仲間の輪にはいってください。お待ちしております。

*先読み加配=産休など予測できる代替教員をあらかじめ先に学校に配置しておく制度
神戸市は実施している。



公開学習会

実践玉手箱～ネタもらっちゃおう～

12月5日(日) 13時半～15時半 高教組会館にて(元町駅下車すぐ)

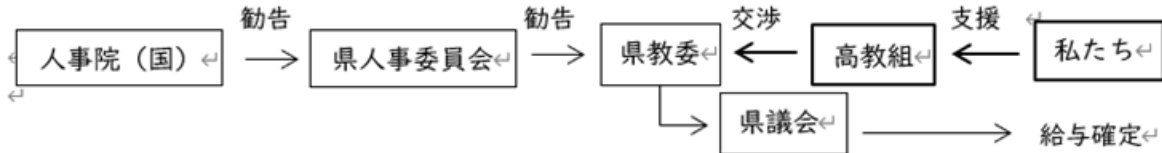
「この教材良かった」「これで子どもの素敵な姿が見られた」など、授業や教材を紹介しあいながらその意味や発達的に大事なポイントなど考えるワークショップです。誰でも参加できます。(無料) 会場参加+オンラインでも参加OK. 詳細は障教組ブログ(上記QRコード)にあります。検索してね

労働講座 私たちの賃金は・・・ 賃金確定、対県交渉に向けて



<給与確定の仕組み>

- (1) 私たち教職員（県職員）の給与は県教育委員会（県当局）が支払います。
- (2) 人事院（国）は4月～夏頃に民間給与と一時金を調べて、それに基づいて勧告を出します。
- (3) 都道府県の人事委員会は人事院の勧告を元にそれぞれの県で勧告を出します。
- (4) 県人事院の勧告を元に、高教組が県教育委員会と賃金と待遇（休暇など）を決める交渉（確定交渉）を行い、その結果によって私たちの賃金が確定します。



<給与の支払われ方>

- (1) 4～12月の給与と一時金は前年度の給料表を使い、仮払いされます。
- (2) 12月の県議会で条例が改定され、本年度の給与が決定します。
- (3) 仮払いとの差額があれば、12月頃に調整（支給や減額）されます。

<本年度の状況>

- (1) 人事院（国）勧告 月例給は民間より19円多い → 改定なし（0円）
一時金は民間より0.13月多い → 0.15月分引き下げ
- (2) 県人事委員会 勧告 月例給は民間より3円多い → 改定なし（0円）
一時金は民間より0.16月多い → 0.15月分引き下げ



☆ これから県教委と高教組の賃金確定交渉が始まります。交渉では当局に現場の労苦や成果などを伝えていきます。たくさんの方の加入や支援が力となります。あなたもぜひ高教組（障教組）へ！

第3回ZOOM学習会 報告 オンラインだから参加できる、新しい学びの場

高等部の重度の生徒の作業学習（さをり織り）についてのレポートを元に、原田先生と8名の参加者で学習を深めました。ものづくりの大切さや、さをり織の魅力、商品を作ることとその子らしさを大切にすることの矛盾についてなど様々な意見が出ました。卒業しても織った布を大切に飾っている子がいるという話を聞いたときは、そのときの達成感や充実感が後々までもその子の心を支えて

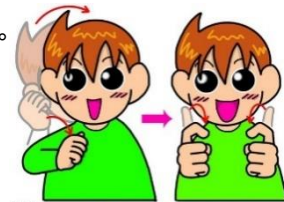


いくんだと思い、ほっこりした気持ちになりました。原田先生からは作業学習の本来の意義、学習領域を意識しながらつけていける力、経済活動に参加する意義や製品作りの魅力、学びあいや共同作業の大切さ、一人一人の喜びや達成感をキャッチするための記録についてなどの助言を受けました。発表者からも「重度の生徒にとっては、販売のための製品をつくるよりも、短いスパンの単元で身近な人のための製品を作る方が取り組みやすいということなど、多くのアドバイスを頂き、とても勉強になりました。」とのコメントを頂きました。どの学部の子どもにとっても、どんな力をつけていけばいいのか、どんな風に授業を進めていけば楽しめるのかなど考えることができる、とても有意義で楽しい学習会でした。

なるほど手話

コロナ禍では手話が注目されているようです。おはよでは、今回から手話を紹介するコーナーを始めました。

豊岡聴覚特別支援学校では、知的障害部門の子どもたちも手話を使っていて、自閉症の子どもたちが手話から音声言語に移行した例もあります。



朝 → あいさつ

朝とあいさつの手話で「おはよう」

分会紹介 上野ヶ原特別支援学校分会



本校、分校、訪問学級に分かれているため、lineで連絡しています。夏季休業中に、転入された先生の歓迎会と職場の現状報告や職場アンケートについての話し合いを行い、現在交渉に向けてまとめているところです。先日、新しい仲間を迎えるといううれしいできごとがありました。少人数の分会ですが、これからも大人も子どもも元気で安心して過ごせるように、活動していきます。